

1月18日(月曜日)

ドル/円

ユーロ/円の動向に注目

15日(金)の主な推移

NYダウ平均

10609.65ドル
(-100.90ドル)

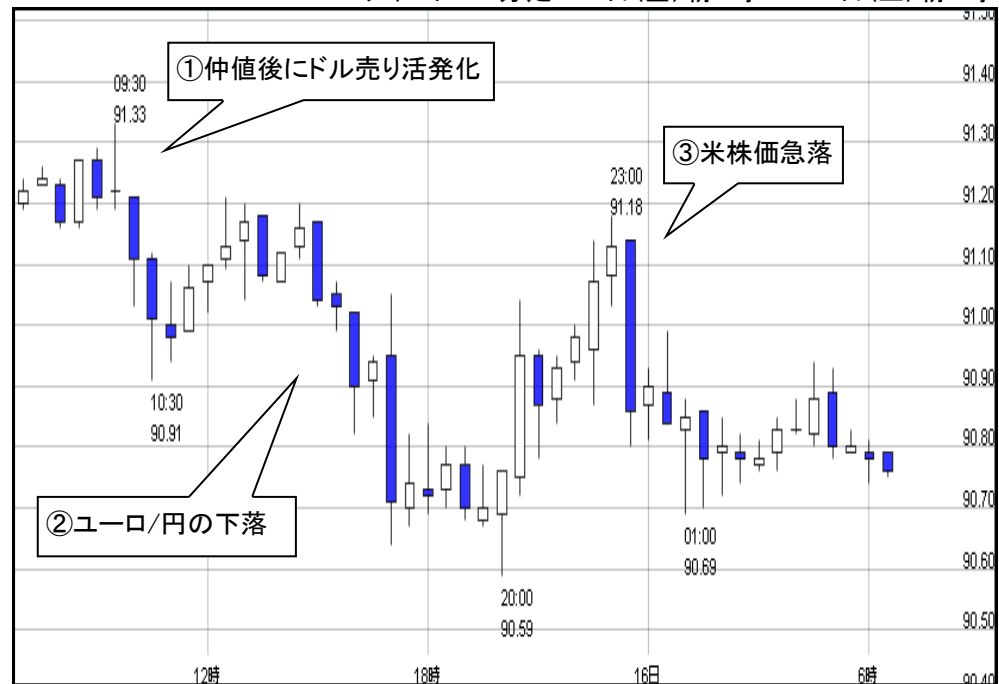
米長期金利
(10年債利回り)

3.6802%
(-0.0658%)

NY原油先物

78.00ドル
(-1.39ドル)

チャート: 30分足 15日(金)朝7時 ~ 16日(土)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

- ① 朝方は仲値不足(決済に必要なドルが不足)観測からドル買いが先行し、ドル/円は91.33円まで上昇したが、午前10時前の仲値(日次の基準レート)決定後は一転してドル売り・円買いが優勢となった。
- ② メルケル独首相が辞任との噂が出たことでユーロ売りが強まったこと(その後独政府が噂を否定)や、ジャマイカが事実上のデフォルト(債務不履行)に陥ったと報じられたことを受けてリスク回避の円買いが強まったことが相まって、ユーロ/円が昼過ぎから夜にかけて下落。これに伴い、ドル/円も夜に90.59円まで下落したが、90.50円手前では底堅く推移した。
- ③ 米銀大手J.P.モルガン・チェースの第4四半期決算が市場予想を上回ったものの、住宅ローンやクレジットカード融資に関する損失が膨らんだことを受け、同行の株価が2%以上下落。米ダウ平均株価は序盤に前日終値比最大ほぼ150ドル下落するのに伴い、ドル/円は90.69円まで下落したが、ダウ平均株価が引けにかけて下げ幅をやや縮小するのに伴い、ドル/円も小幅に値を戻した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国の経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・日本の政局の混迷
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 90.30-91.35円

本日のドル/円は90円台後半を中心にもみ合う展開となりそうだ。15日の米長期金利が低下したことが示すように米国の利上げ観測もやや後退していることや、先週発表されたインテルやJ.P.モルガンの決算が失望させる内容となったことを受け米株式市場に弱気な見方が強まりつつあることから、ドル安・円高圧力が強い状況が続きやすいだろう。ギリシャ財政問題を背景にユーロ/円の下落圧力が根強いことも、ドル円を押し下げる要因として留意する必要がある。

本日は米国市場が休場の中、心理的節目の90円を割り込む可能性は少ないと見られるが、90円を割り込むとすれば、ユーロ/円の急落に引きずられる形になる可能性が高いだろう。また、民主党の小沢幹事長の不正資金疑惑を巡り、政局の混迷が増しており、外国為替市場において円売り材料視されるか否かが注目される。

本日より明朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/18(月)			米国休場(キング牧師誕生日)	—	—
			特になし	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com